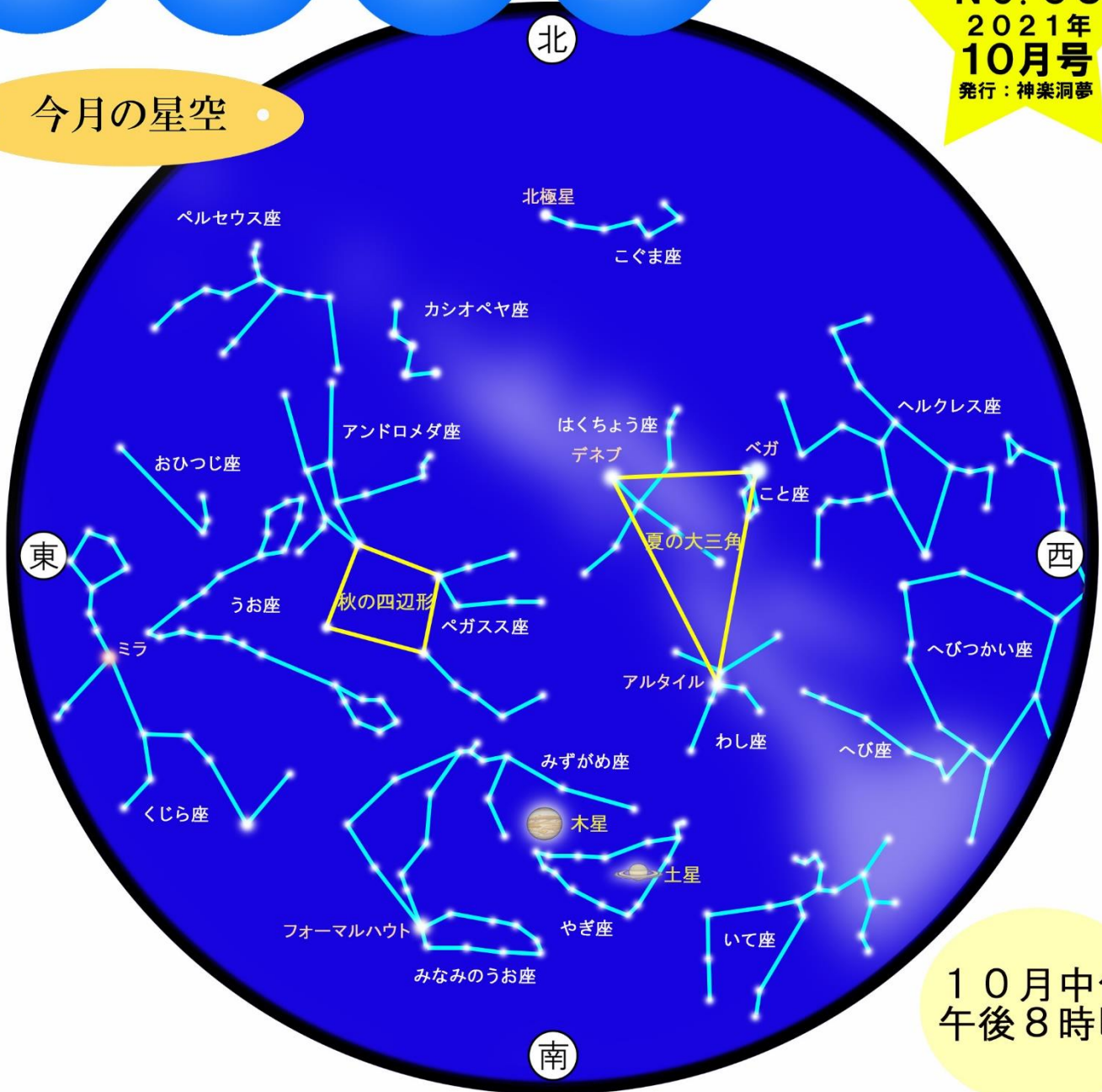


神楽通信

No. 68
2021年
10月号
発行：神楽洞夢

今月の星空

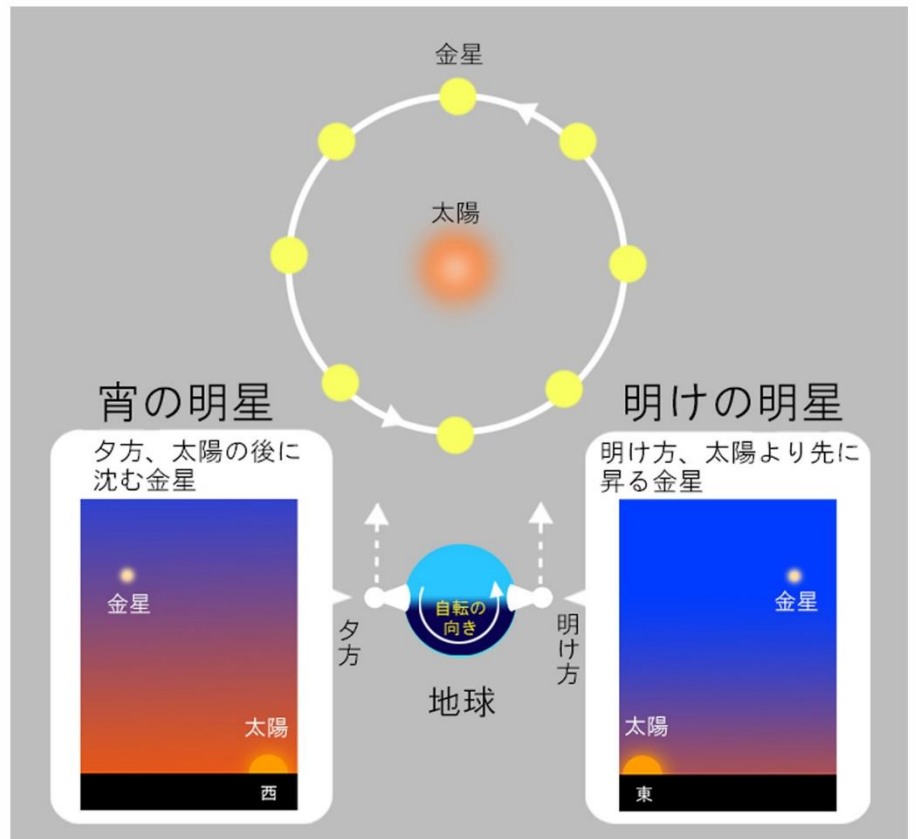


10月中旬
午後8時頃

秋の四辺形やカシオペヤ座が見ごろになりました。南の空には、「秋の一つ星」とも呼ばれるみなみのうお座の1等星フォーマルハウトと、木星と土星が目立ちます。秋の空には明るい星がありませんが、今年は二つの惑星が輝いているおかげで、空を眺めるのが楽しくなりそうです。

近頃、夕方の西の空では金星がひとときわ明るい輝きを見せています。見ごろの時期には一晩中楽しめる木星や土星とは違い、金星は夜も早いうちに沈んでしまいます。どうしてなのでしょううか。

地球より外側を回る木星や土星に対して、金星は地球よりも内側を回る内惑星です。太陽からある角度以上離れて見えることはないため、金星は真夜中には見ることはできません。地球や太陽との位置関係によって、夕方の西の空に見えたり、夜明け前の東の空に見えたりします。



夕方の西の空に輝く金星は「宵の明星」、夜明け前の東の空で輝く金星は「明けの明星」と呼ばれて親しまれています。金星が太陽の方向にあるときや、その前後数週間金星を見ることはできなくなります。

金星はこれからさらに明るさを増します。今年最も明るくなるのは12月上旬で、マイナス4.7等になります。金星の見ごろはこれからといえるでしょう。(原田)